

いわき民報

発行所
いわき民報社
平市田町四八番地一七六號
編集長 渡邊 國之助
印刷所 千原 克己
日刊 但月曜日を除く
定価 一月十円 一部五円



郷土新聞の面目躍如

本社屋の新装成り

本社の新築社屋竣工式大に成り、同年八月市多の困難に遭遇したが、既報の如く石原本縣内有志の發起に依つて工事請負を擔任され、知事初め、郡市の官公資本金十九萬内(全額)を猪狩建設事務所の「祭」を催し、戦時以來、衛生、地方有力者等百(拂込)の株式組織に更機性的援助に依つて辛うつせきして居る地方、五十名招待し、今六新、十一月起工以來幾くも竣工を遂げるに至るものやを拂ひのけて、日午前十時から盛大に、引續き新装なれ、社屋の棟上で祝宴を、張る事になつた。本紙が昨年五月一日、唯一の郷土日刊紙として、發行、當時印刷を加納印刷所に委託して、同所の都合に依つて、解約の止むを得ぬ事態を招き、昭和活版所に轉換するに迫る苦しい経営を要するの聲が、

社説

民報を發刊したもの、と印刷設備が必要だ、である。ところが果、然各方面から反響を呼び、『いわき民報』は郷土に於いては、なほ新聞である之れを育て之れを永く継続させる。その課せられた使命を完ふさせたいものだ。それが爲には是非共新聞社に立つた日刊いわき

つたものであつた。新築成り、外に舊建築物、一般展覽は十五日か進行上にも大いに能率を上げる事にならう。交友クラブは各會員のオフイスであり、應接間となつて、個人間的には商談や休養の場ともなり、團體的には地方の有力者が相會して居るだけに、政治、經濟、文化等あらゆる面の智識を結集、商工會議所の別動隊ともなり、世論を指導する機關ともなり得る。近づく事を期して發足する事になつて居るが、百名の定員になるまで會員の募集を繼續することになつて居る。

記念催しのかす

先づダンスと寫眞展開、社屋の新装を記念し、新鮮な空気を注入、市、本社が地方文化の興隆と生産増強に寄與するとなつて明日への増進ため、既報の如く素人に拍車をかけるやう計、演藝大會、同音樂會、雄辯會を進めて居る。辯大會等青年の健全娛樂を初め、軟式野球、蹴球、卓球のスポーツ競技や寫眞展、美術展、廣告圖案展など藝術方面の向上を期し、趣味の備として圍碁、将棋、釣大會、ダンス、パーティなどの計畫があり、經濟復興策に市振興座談會や中央名士を招き、經濟科學講演會なども開く。今年も平市市制實施十周年に當るのを、本社が香頭取り市制紀念に併せて「平市復興祭」を催し、戦時以來辛うつせきして居る地方民のものやを拂ひのけて、印刷設備が必要だ、と云ふ聲がきこえる。然るに、この點を以て、結果として遂に今日見ることが出来る。この屋が出来上つたのである。勿論、これは社屋が上等だから機械設備がよいから、文で誇り得るものでないが、縣内で印刷設備を有し且つ日

七日から實施

鐵道乗車賃の値上
貨物關係は六日に

列車の乗車賃大幅引上實施と決定、けは七日からと決定、五日發表された。今度の改正で新運賃は既報の如く現行の二倍半と、なつたが、手荷物運賃も同様二倍半の引上、新運賃は手荷物料配給を左記日割で行うが、配給基準は一人五點(カッコ内は區別)。

- 十日(九、三〇、三)
- 十日(三、一、九)
- 十日(三、四、七)
- 十日(三、四、九)
- 十日(三、四、七)
- 十日(三、四、九)
- 十日(三、四、七)
- 十日(三、四、九)

石城地方事務所では、端境突破の大むぎ七千五百俵、小むぎ千九百俵に明るい希望をもたせ、健全な思想を育むことが大切である。故來新聞は公共性にかんがみ、もうかからないのを原則とする。この點について見本に終らさな。逸早く勿來からむぎ二十、俵供出する、たど感謝の一言につく、と熱望する次第である。●麥の早期供出割當決るこれも完遂を希う。

町村は中旬

石城地方事務所では中旬ごろ全町村に衣料一八五點宛の配給を行うことになつた。品目は八二(一三)〇〇十七日、じゆん、靴下等にあたつて全配。

麥供出 走り

勿來町から二十一俵

郡下のトップを切つて十俵の早期供出割當に、勿來町から大むぎ二十とない五日全町村に、一俵が五日供出された通牒を發し、協力を要す。勿來町字道上小林望した、郡の本割當は千早さんの三俵を皮切、二日ごろの豫定、四俵、荒川彦一さんのあさずこれを目標とし、六俵、同外城藤田みつ、續いて第二次割當も、八俵の八俵等計二十一俵に達する事になつた。

婦人民生 委員研修

婦人民生委員の研修會は八月八日福島市に開かれ、八日午前十時から、所では奮つて参加され、市の教育活動強化対策たいと各町村に通牒を發した。

衣料品配給 日割

十日から一週間

市配給課では一般用衣料配給を左記日割で行うが、配給基準は一人五點(カッコ内は區別)。

- 十日(九、三〇、三)
- 十日(三、一、九)
- 十日(三、四、七)
- 十日(三、四、九)
- 十日(三、四、七)
- 十日(三、四、九)
- 十日(三、四、七)
- 十日(三、四、九)

早期供出 割當

本割當「二日」

石城地方事務所では、端境突破の大むぎ七千五百俵、小むぎ千九百俵に明るい希望をもたせ、健全な思想を育むことが大切である。故來新聞は公共性にかんがみ、もうかからないのを原則とする。この點について見本に終らさな。逸早く勿來からむぎ二十、俵供出する、たど感謝の一言につく、と熱望する次第である。●麥の早期供出割當決るこれも完遂を希う。

いわき寸言

●料飲店閉鎖、このころ失業大量生産と、いつた態、御努力衷心に、

衆議院議員

關内 正一

衆議院議員

齊藤 晃

衆議院議員

小澤 專七郎

平市役所

市長 鈴木辰三郎
助役 阿部治英
収入役 根本益利

平警察署

署長 本田 泉
次席 岩下 博

石城郡町村長會

會長 酒井良平
副會長 渡邊 國之助

石城郡町村長會

局長 吉川 政治

平郵便局

局長 久太郎
平市五町目

石城郡町村長會

局長 箱崎 利勝

祝いわき民報社新築落成

新發足線上の平市

輕燕風を受け斜なるきよの
佳き日を記念しその頌を願る

哲村 迂人

古い日本が影をひそめしつゝ文化の香
めて新しい日本が誕生し高き而も謙虚な祖國
した。われらの新興都を正しく築き上げてゆ
市タイラがいま輝かしこのには常に厳正公平
イヤンガーゼネレーションなそしてその明えい智
ヨンの力強い鼓動を波な言論のタクトを見つ
打つてゐるのは餘りにめてより冷静に思想し
も明白な時代の必然で 作爲せねばならぬから
はあ。國破れて山河 である。平地の地たる一
在り、城春にして草木と頃四つもあつた日刊
深し、誰かそら 紙から一つだけ残され
した安價な感傷に低かたわいわき民報によつて
之を久しうするもの 啓蒙指導さるる處少か
ぞ。タイラ行進曲の軽らず、人みなその存在
快な旋律を電波する音に時代の恩寵を感じて
源、躍進平市の心臓部 いた矢先き今度は社業
たる市役所を差しあ の躍進から果敢新聞界
たり市公會堂の假りの 常に見る自主的企業化
住ひであるが、過る 社屋の建築を計畫し
戦災から建ち立ちあ 困難をよそに安壯な
がるわれらの街は此 時節柄極めて深刻な資
を起點にあらゆる部 材難と勞務給源の枯渇
遠心力的に、例へば 此の仕事にはスライヂ
どきの南瓜の蔓のそ れの仕事にスライヂ
の如く無制限に飛ば ンク、スケールもニ
は市の事業と云うで はなかつた。一切理
ないが其の現れの一 つつなしにいとス
と見るべきものに時 節ズに取り運ばれた。
柄勇猛果敢な現前 の 結構壯麗、まさに大
わき民報社屋完成が 平市の景観を浮彫り した偉容はそ、ろに地
る。

王者の威を以てして 方文化の大轉換を象徴
尙おまぐくくもない して餘りがない。思へ
わゆる言論の自由は、 平とは元來假野平を とし物わりの早い民
新憲法がわれらに與へ 略稱せしものならん 主的のお役人に支配さ
て呉れた最大の贈りも 名に於て好聞莊に屬 する。城名を平と稱し
のたる世にも快朗な民 取所を置かれたのが 古くは飯野ヶ平とも
とそを意義を深められ 鴻業明治への大轉回 行はれた直前の慶應四
んとして居る。然り強 就てその起源とも云 年(1858)の七月半ば

御料牧野金丸の支配所
の店開きが明治と改元
早々の九月二十八日
あつた。
安藤信勇封を役せら
る。明治二年八月三
日平藩政廳を置く
同年八月十九日
鳥居氏の築城以來維
新に至る迄、平藩領の
一邑、藩街道の一驛と
して、廣重描くところ
の東海道五十三次に登
場するよな振り分け
荷物の旅人あまた往來
する要衝にたつたので
諸官衙、公私立學校
を占め、自然司法行政
教育の中心をなし、一
面貨物集散の商業地た
る進歩を築いた。明治
三年秋、明治三十九年春
再度の祝願に見舞はれ
たが期年ならずして復
興むしろその都度幾
太りの奇觀を呈し而も
東西三十五丁南北十八
丁の舊市域は先年平藩
との合併によつて一團
それは何倍する急激な
膨らみを見せた。
超急テンポな發展振
りはその昔町村實地制
り時代の豫算二萬圓台が
今日實に八百萬以上と
云うその當時で見ると
全く天文學的數字に奔
躍した一事が其間の發
達變遷を物語つて餘す
處がない。街には復興
の雄音下と一歩市の
の雄音下と一歩市の
外郭に生れば一種ダイ
ナミックな音響が威勢
よく産業復興の譜を奏
でて居る。
われらは市の文化史
にはつきり一線を劃し
たいわき民報の社屋完
成を機に平市の明日を
祝福しようではないか
(七、五朝)

祝いわき民報社々屋落成

<p>磐城通運株式会社 平市御前通五五四、四五六</p>	<p>旭自動車工業株式会社 平市御前通一〇三二</p>	<p>平土木建築工業組合 平市大町一五 組合長 片寄孝平 副 齊藤三郎 顧問 片野勝藏 齊藤角治 高山高藏 涌井經春 杉山清一</p>	<p>新星藥品工業株式会社 平市五日市三三、六六八</p>	<p>新星硝子工業株式会社 平市御前通七二四</p>	<p>常磐産業株式会社 社長 高山弘 平市小畑小路</p>	<p>株式會社平製作所 取締役社長 鈴木賢二 平市御前通四四四番</p>	<p>平木工株式會社 平市御前通二六</p>	<p>平硝子製作所</p>	<p>石城郡酒造株式会社 平市鍛冶町</p>				
<p>古川鐵工所 平市鍛冶町五番地 古川直治 電話九〇四番</p>	<p>福島縣指定自動車整備主要工場 安全自動車株式會社特約店 磐城自動車工業株式会社 社長 大内昌吉 平市五日市御前通三〇、四九〇番</p>	<p>東信製紙株式會社平工場 平市五日市御前通七四九</p>	<p>製材木工 菊地鐵工所 機械製作 平市五日市御前通五九九番</p>	<p>平板金製作所 平市大町四電七七三</p>	<p>福島産業有限公司 製材業 丸一材木店 瀧口 豐 平市五日市二九〇番 工場 彌富町電話五五六番</p>	<p>福島縣洋洗商業協同組合 平市御前通四四四番</p>	<p>平古物商協同組合 理事長 片寄半三郎 専務理事 鈴木勝雄 理事 森永太郎 伊藤退之助 同 會田半吾 同 青木喜一郎 同 北川鶴吉</p>	<p>尾張屋商店 福助印帳簿發賣元 平市五日市御前通四七番</p>	<p>帽子卸小賣商 上田徳久商店 平市御前通四七</p>	<p>衣類高價買入 福屋 平市御前</p>			
<p>いそだま本舗 三木商會 平市新川町七三</p>	<p>三浦商會 平市三日目</p>	<p>玉屋眼鏡店 平市三日目 電話九一〇</p>	<p>佐川洋服店 平市三日目 佐川三良</p>	<p>時計眼鏡 常盤屋時計店 平市三日目 電話三三九</p>	<p>各種時計と銀鏡 貴金屬レコード 誠光堂時計店 平市御前通四四番</p>	<p>福助印帳簿發賣元 尾張屋商店 平市五日市御前通四七番</p>	<p>日進堂本店 アイスクリム とパン委託販賣 平市御前通六二五</p>	<p>運動具 菅田靴運動具店 平市御前通七七</p>	<p>大塚運動具店 假營業所 平市第三小學校前</p>	<p>あらゆる百貨問屋 さかいや 平市七日目</p>	<p>阿部藥舖 平市御前通</p>	<p>荒物雜貨 武子屋商店 平市五日目 電話六一八番</p>	<p>いづみや商店 平市御前通三三八</p>

青少年保護 団体を結成

平檢察廳で具体案作成を急ぐ

食糧不足、家庭不和、工場、事業場における不良仲間、誘惑からあつた純真無實な青少年達が悪の道に踏み迷ひ、遂にはとらへしのかね結果となり、延いては日本再建の障害ともなるの平檢察廳では近く、青少年保護団体をもうけることになつたが此れにより戦後急速に芽生えた悪華を刈りとるうとするもので、各方面より多大の期待をかけられてゐる。

肉親愛を基調に

窃盗が壓倒的 青少年の犯罪調へ

(別項)平檢察廳では本年一月から三月までの青少年犯罪の動機を調査して、これら水戸管理都主備の美術鑑賞會は十一月三、四の様にまとまつた青靄の監督不周、先輩の三日間平閣樓上に閉居することになつたが此れにより戦後急速に芽生えた悪華を刈りとるうとするもので、各方面より多大の期待をかけられてゐる。

夏秋蚕の割當

春繭同様目標突破に

悪天候に祟られ愛慮さ二千五百貫を突破させられた本郷も、養蠶家ようと早くも各關係の努力により目標突破方面に呼びかけ種々萬の好成绩は確實との見全の準備を進めて居る。透しがついたので、地がその町割當は左の如く決定された(單位グラム)。

開放

スポーツ連に

▼新日本の再建に當りスポーツ並に健全な娯樂も大いに結構なるもスポーツ連盟が昨今練習に名を籍りて盛んに唱導して居るダンスは一体如何なる目的によるものか不思議に思ふ。

祝

いわき民報社々屋落成

石城郡内郷町小島 佐藤三平	平市南町 芹澤政資	石城郡江名町 黒川喜一郎	計理士 桑原徹 平市揚土	小名濱町 富ヶ浦病院 院長 安田善一 電話(三三三)	警城セメント株式 四倉工場	石城郡四倉町 福島縣農業會四倉工場	石城郡江名町 江名造船所	石城郡豊間町 豊間漁業會	石城郡四倉町 日東紡株式會社四倉工場 工場長 齊藤立哉	石城郡四倉町 電機工業株式會社 四倉工場 福島縣石城郡四倉町 本社 東京品川區平塚四ノ三三七	石城郡四倉町 饅頭日本通運四倉營業所	石城郡四倉町 常磐物産株式會社	石城郡四倉町 有限會社四倉造船所 社長 長谷川西次郎	土木建築請負 福島縣石城郡ゆ本町天王崎四拾壹地 株式會社 鹿島組常磐出張所 所長 岡田徳藏	常磐物産株式會社 湯本支店 湯本支店 湯本町電話一七 平賣店 平市銀座電話二四 四倉支店 四倉町本町 久の湯支店 久の湯新橋 湯本工場 湯本町電話	近代的感覺 色彩豊カナ 建築工事ト家具製作ハ 責任アル 長谷川組 土木建築製材家具木工一切 長谷川組 代表 長谷川誠一 湯本支店 湯本町電話八	湯本地区商業協同組合 電話一三七	湯城通運株式會社 湯本支店 電話三八番	石城郡ゆ本町字三画一四九 株式會社 福島無盡金庫湯本支店	ゆ本町字天王崎四四 海産物市場 電話一七	石城郡ゆ本町天王崎一五番地 湯本海産物販賣組合 電話一五三	石城郡平市三丁目 なかや洋服店 電話二〇三	松月堂 銀座通り 電話二〇三	平俱樂部 平市仲田町	玉壽司 平市銀座通り 電話五七五	料亭 田毎 平市田町 電話六三三	割烹 月の家 平市田町 電話三〇四	割烹 花村 平市田町 電話四	割烹 越之家 平市田町 電話八九	割烹 谷口 平市二丁目 電話一八番	割烹 松本樓 平市田町 電話一三三	映畫常設 聚樂館 平市銀座町	映畫常設 平館 平市南町	映畫常設 世界館 平市白銀町	一萬莊 平市銀座通り	平和莊 平市田町世界館隣	麻雀 平市田町	松月堂 銀座通り 電話二〇三	喫茶 住吉屋 平市銀座一四九	喫茶 ミツキ 平市中央通り
------------------	--------------	-----------------	-----------------	-------------------------------------	------------------	----------------------	-----------------	-----------------	-----------------------------------	---	-----------------------	--------------------	----------------------------------	--	---	--	---------------------	---------------------------	---------------------------------	----------------------------	-------------------------------------	-----------------------------	----------------------	---------------	------------------------	------------------------	-------------------------	----------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------	----------------------	--------------------	----------------------	---------------	-----------------	------------	----------------------	----------------------	---------------------